

異文化体験交流 in ASO

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
[後援] 九州各県・政令指定都市教育委員会
[協力] 財団法人熊本市国際交流振興事業団
[期間] 平成21年12月19日(土)～20日(日) 1泊2日
[会場] 国立阿蘇青少年交流の家
[参加状況] 111名
 高校生 19名
 大学生 29名
 一般 17名
 留学生とその家族 46名



ワークショップの紹介をする参加者

1 事業の必要性

人や物、情報等が地球規模で行き交い、急速な国際化が進展している今日、日本と諸外国の青年やその家族との交流を通して、相互の有効と理解を深め、次代を担うにふさわしい広い国際的視野と国際協力・国際貢献の精神を身につけた青年を育成する活動を展開すること、また、そのための効果的なプログラムを開発し、普及することは重要な課題である。

2 趣旨

日本と世界各国の青年やその家族が阿蘇に集い、それぞれの国の文化や伝統などをもとにした交流会を行うことにより、相互の異文化理解と交流を図る。

3 目標

- (1) 文化体験を通して、様々な国の文化に興味を持つことができる。
- (2) 様々な国の人と積極的に関わっていくことができる。

4 事業の実際

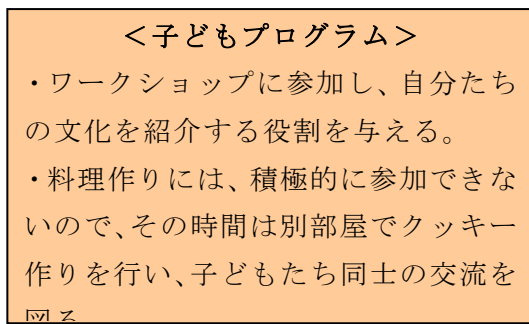
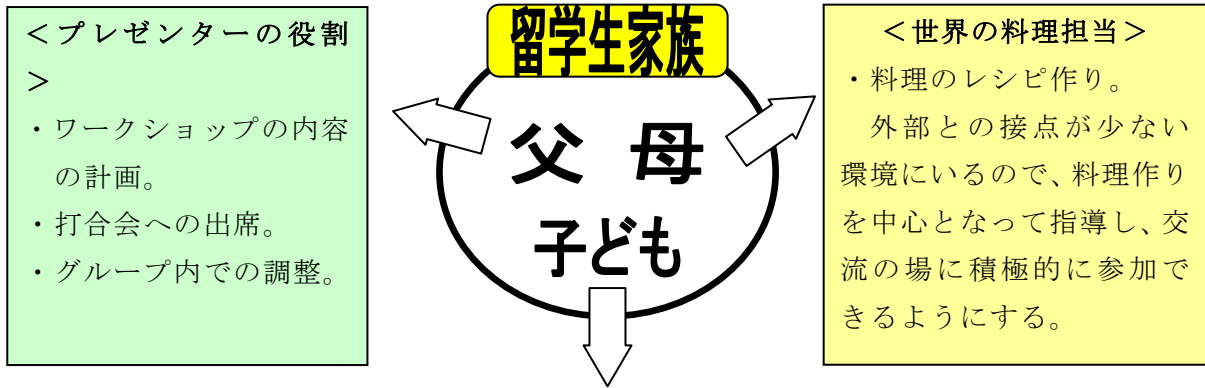
(1) 研修プログラム

日程	午前	午後	夜
12/19 (土)	10:00受付 ○開会式 ○グループ編成	○ワークショップ ○世界の料理	○交歓会 ○自由交流会
12/20 (日)	○もちつき ○会食	○閉会式 13:30解散	

(2) 目標達成のための工夫点

① 留学生の視点でのプログラムの展開

留学生は、家族で日本に滞在しているケースが多く、家族で参加できるプログラムを期待していることが、留学生と話をして分かった。そこで、家族で参加できるプログラムを留学生とともに立案した。



料理を指導する留学生の家族

② 異文化理解を深め、異文化に興味を持つための工夫

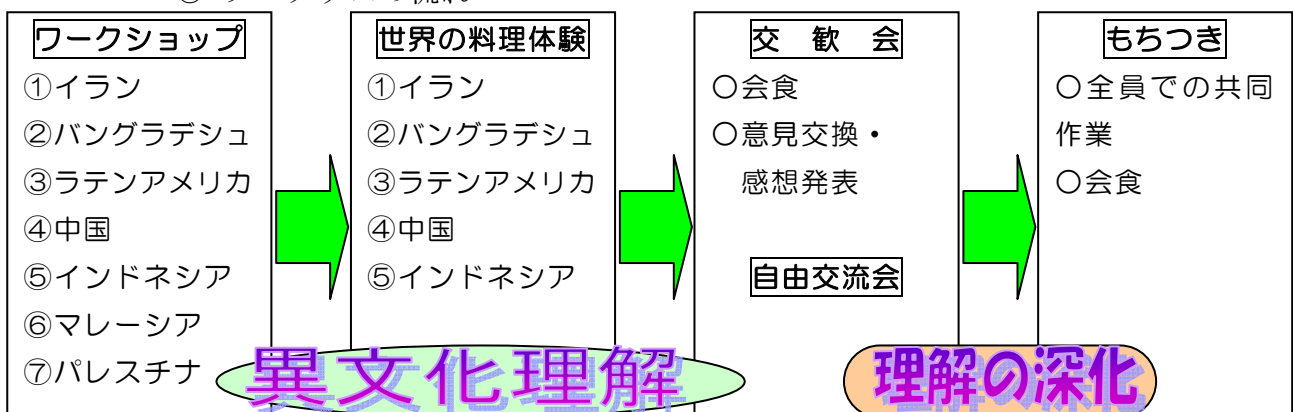
ア ワークショップの工夫

ワークショップは、各国ごとに部屋を分け、各国のグループに運営を任せた。また、内容は、参加者が参加できるようにパワーポイントによる説明だけでなく、ダンスやゲーム・遊び、演習などを取り入れた内容に工夫をしてもらった。7カ国の参加があり、なるべく多くの部屋に行けるように30分のプログラムを3回実施してもらい、参加者が3つの部屋を回れるようにした。

イ 餅つき

自分たちの文化に触れるために家庭ではなかなか体験できなくなった餅つきをプログラムに取り入れた。

○ プログラムの流れ



③ 様々な人と関わり、交流を深めるための工夫

ア ワークショップの工夫

なるべく多くの個と個の交流ができるように、参加者の一つのグループを5、6人とし、発表者と参加者が同じ数になるようにした。

イ グループ分けの工夫

多くの人と交流ができるように、ワークショップ以外の活動は、くじ引きによるグループ決めを行った。くじ引きにすることで、留学生だけでなく、グループ内での日本人同士の交流も図ることができるようにした。



ワークショップを楽しむ参加者

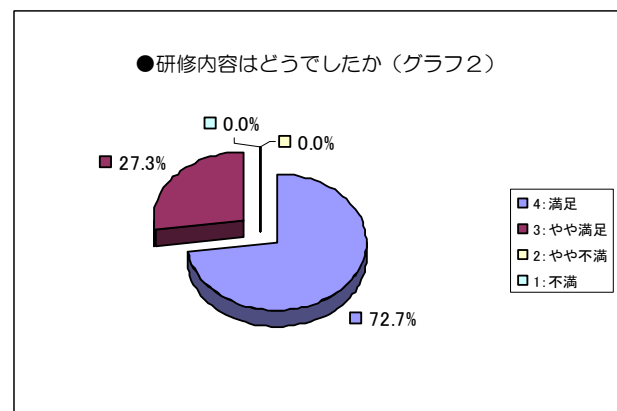
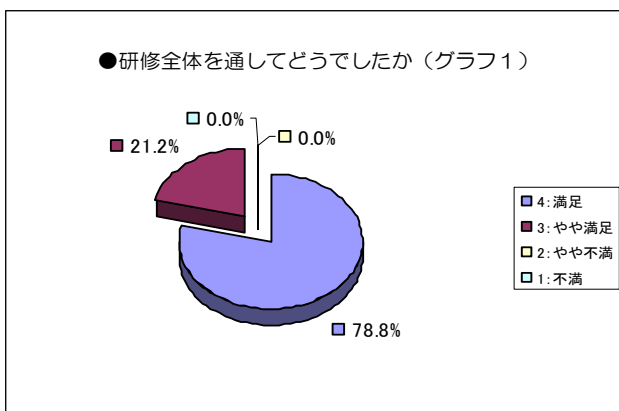
ウ 体験活動の工夫

料理作りや餅つきなど体を動かしながらの共同作業を共に行うことで、自然にコミュニケーションがとれるようにした。また、更に交流が深まるように、共同作業で作ったものを共に食することをその後の活動に取り入れ、同じ感動を味わう場面やお互いを認め合う場面が生まれるようにした。

5 結果

○ 日本人参加者のアンケート調査は次の通りである。

(1) 研修全体・内容に関するアンケート結果について



② 研修全体に関する参加者の記述

- ・ とても時間が短く感じた。来年も参加したい。楽しく交流ができた。世界は広いと感じた。今回の交流でまた一歩夢に近づくことができた。
- ・ めったに外国の方々とこんなにもたくさんふれ合うきっかけがなかったので参加してよかった。
- ・ 貴重な体験ができた。ここで学んだ“気持ち” (お互いを理解しようとする心) をこれからも持ち続けていきたい。



ワークショップの感想を発表する参加者

- Special thanks for arranging such type of program. It was really enjoyable. We enjoyed the program very much.
- I spent a great weekend working, learning and sharing. The activities were very well organized, interesting. I learned so much and enjoyed and made many new friends. The weather was cold but the environment through the programs was warm and welcoming.

③ 研修内容に関する記述

- 世界の料理や伝統衣装、言語など様々なことを知ることができた。
- 初めて見る食材や作る料理、初めて食べる食事など貴重な体験となった。
- 他国の文化をたくさん知ることができてよかった。踊りや遊びが面白かった。料理を食べて、文化の違いがこうもあるのだと感じた。
- 異文化と接することで自分が持つ日本の常識や価値観を崩してもらった。そのことで視野が広がったと思う。日本の良さも同時に理解しました。
- Thank you very much for your kind organizing Aso program for foreign family. We enjoyed very much.

(2) 交流に関するアンケート結果について



○ 参加者の交流に関する記述

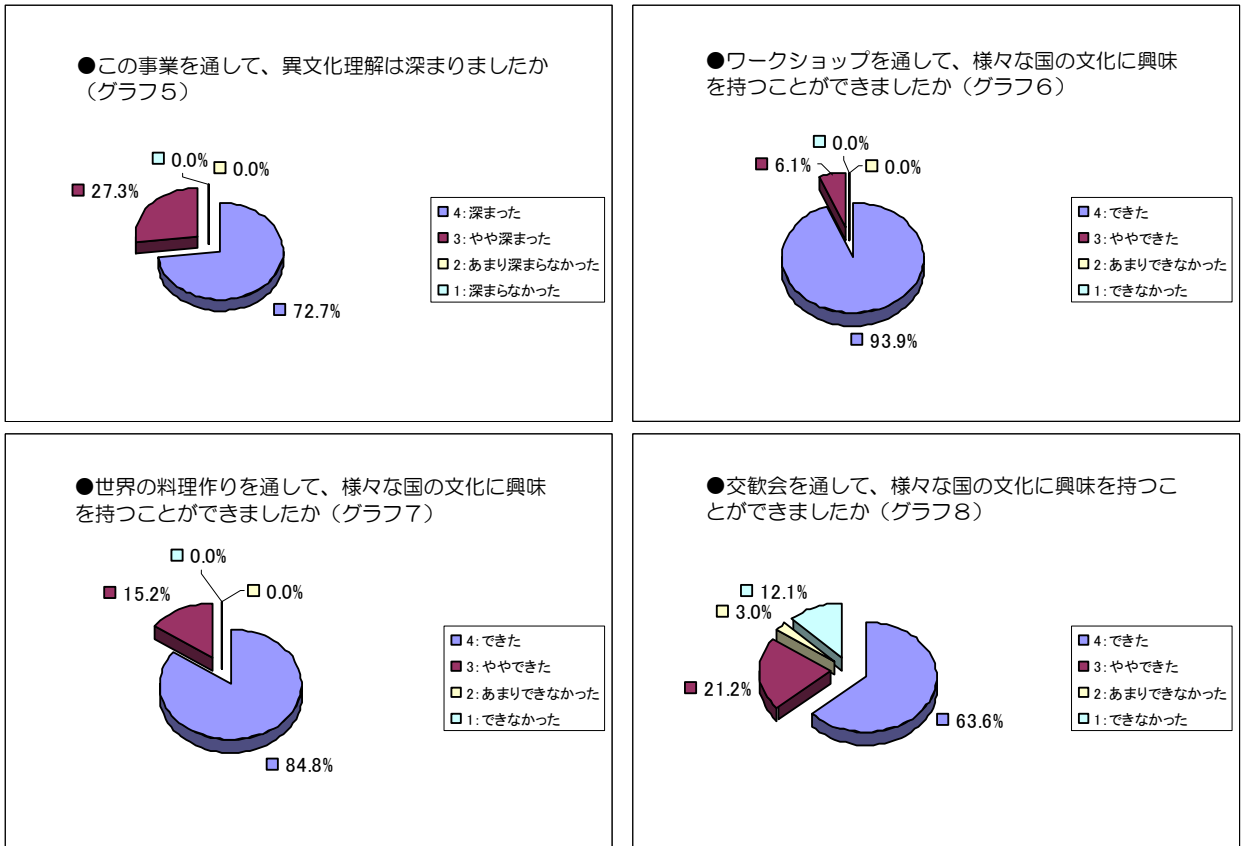
- 見方が変わったような気がします。積極性が大事だと感じた。
- その国の方と直接話すことで興味を持つようになると思います。
- 普段なかなかこのようなきっかけがないので、参加できて本当によかった。
- 今までなかなか話すきっかけを見つけられず、話しかけられなかったけど、今回の交流で話すことができ、これからも話していけそうです。
- もちつきは自分自身もすごく好きだったし、外国の方々にも体験してほしいと思っていたので良かった。



餅つきを楽しむ参加者

- もちつきに外国の方々には夢中になっていたのですが、交流ができず、ほとんど見るだけになってしまいました。

(3) 異文化理解に関するアンケート結果について



○ 参加者の異文化理解に関する記述

- ・ 日本にはない国独特の文化などについて知ることができた。色々な国に深く興味を持つことができた。
- ・ 今まで興味のなかった国に興味を持てるようになったのも、実際にその国の人たちと交流することができたからだと思います。
- ・ もともと異文化に興味があったが、実際に色々な国の人たちと関わることで、もっとその国について知りたいと思ったし、その国の言語が話せるようになりたいと思った。
- ・ 言葉は通じなくても、お互いを理解しようとする気持ちが一番国際交流の行いう上で大切だと思った。
- ・ 文化が違ってても、その国のことを知ることによって国それぞれの文化のよさに気づくことができた。
- 自由交流会がなくて残念。交歓会の時間も短かった。



料理を通して交流する参加者

6 考察

(1) 成果

① 研修内容に関しての参加者の満足度は100%だった。日本人と外国の方々の人数がほぼ同数であり、ワークショップや世界の料理作りなどの体験活動で多くの会話が生まれ、たくさんの交流ができたことが満足につながったようだ。また、留学生は家族で参加できる今回のプログラムをととても楽しみにしており、ワークショップや料理のレシピ作りなどの事前準備をととても積極的に行っていた。そのため、スムーズに活動に取り組むことができ、それぞれの役割がはっきりとしていたので、交流が深まったようだ。更に、とてもフレンドリーな方々が多く、終始和やかな雰囲気の中でプログラムが行われたことが積極的な交流につながったと考える。そして、日本人にとっては、高校生・大学生の参加が多く、同世代の交流ができたこと、留学生にとっては、地域婦人会が2日目に参加してくださり、日本の母と交流ができたことも満足につながったようだ。



② よく見かける英語圏の学生ではなく、様々な国から留学生が集まっていたことは、参加者にとっては、新しい体験・経験となり、国際理解という観点からもたくさんの学びがあったようだ。各国の料理体験では、初めて見る食材も多く、新しい発見や経験が数多くあったことや文化の壁を越えてみんなが共に一つの目的に向かって活動できたことで楽しみながらの有意義な時間となり、自国を含めお互いの良さを見つける時間となったようだ。ワークショップの内容もよく、文化の違いだけでなく、その国の文化の良さや自国の文化の良さを発見している参加者も多かった。そのことで、視野が広がったと感じた参加者もいた。

(2) 課題

課題としては、時間配分の面があげられる。参加者が楽しみにしていた自由交流の時間が取れなかったことは、不満につながっている。また、期間が短いので、中身の濃い交流ができるように、交流がしやすい環境を終始提供し、安心して活動ができる場を作る必要があったと考える。

7 まとめ

今回は、通訳としての運営補助者の協力があり、交流がスムーズにできた。ワークショップと世界の料理作りの計画運営を留学生に任せ、留学生主体によるプログラムを計画したことで留学生の参加も多く、様々な国の方たちと多くの交流ができ、参加者からある程度の評価を得たと考える。しかし、事業全体としては、相互の文化交流を図る目的として、1日目は全て留学生主体によるプログラムを展開し、2日目には、日本人学生主体によるプログラムを展開すれば事業に一貫性があり、より事業の趣旨が深まり、お互いの交流や異文化理解が深まったと考える。